

授業科目名	環境法	期別	前期	授業形態	講義
担当者名	原島 良成	単位数	2	開講年次	2

授業科目の概要

実務法曹が環境問題に直面した際に、民事法・行政法の一般理論に依拠するのでは適切な解決を望めないことが少なくない。すなわち、不確実性の高い（＝因果関係が不明確である、あるいは将来世代が被害者である）環境損害は、手続的にも実体的にも裁判上救済されにくい。法政策においても、現在世代の経済的利益が優先されてきた歴史がある。

本科目では、そのような困難に対処しようとした先進的裁判例と法政策を概観しつつ、それらを貫く（べき）基本原理について講義する。その上で、廃棄物等の主要環境規制について具体的な事案処理方法を検討する。

到達目標

- (1) 展開・先端科目としての環境法の特徴を理解し、説明できること。
- (2) 主要環境規制の概略を理解し、要点を説明できること。
- (3) 環境法裁判例の展開をふまえ、具体的な環境紛争の処理方法を提案できること。

成績評価基準および方法

- ・到達目標(2)(3)の達成度を期末試験 80 点満点により測定する。その際、到達目標間の配点は各 40 点とする。
- ・到達目標(1)(2)に関しては講義中にプレゼンテーションを求め 20 点満点で採点する。
- ・最終成績は期末試験とプレゼンテーションの得点を単純に合計して 100 点満点で評価する。

テキストおよび参考文献

必携：大塚直＝北村喜宣編『環境法判例百選〔第3版〕』（有斐閣、2018年、3,190円、ISBN: 978-4-641-11540-8）
 参考：大塚直『環境法 BASIC〔第2版〕』（有斐閣、2016年）
 参考：越智敏裕『環境訴訟法』（日本評論社、2015年）
 参考：北村喜宣『環境法〔第4版〕』（弘文堂、2017年）
 参考：北村喜宣『プレッ環境法〔第2版〕』（弘文堂、2011年）

履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

- ・事前学習：到達目標(1)に関連し、北村喜宣『プレッ環境法〔第2版〕』（弘文堂、2011年）をざっと読了の上で第1回講義に臨むこと。加えて、各回講義の事前配布資料に記された質問事項に対し回答を用意すること（各回1時間程度を要する）。
- ・事後学習：各回で取り上げた判例の補充調査を行うこと（調査官解説・関連判例等。各回1時間程度を要する）。

授業計画および内容等

第1回	環境法の特徴	水質汚濁を例に、具体的事案への環境法的アプローチを解説する。 事前学習としてプレッ環境法を読了しておくこと（講義に持参する必要はない）。 キーワード：環境基準・排水基準・総量規制基準・水俣病・民事訴訟・行政訴訟
第2回	環境法の学習方法	前回に引き続き環境法の特徴を整理し、それに応じた学習方法を提案する。 必要に応じて受講者の民法・民訴法・行政法の習熟度を確認する。 キーワード：環境権・法政策・法執行・法（政策）原理
第3回	汚染防止法 1	大気汚染を例に、具体的事案への環境法的アプローチを解説する。 騒音振動問題も視野に入れつつ、裁判と法政策の現状を概観する。 キーワード：四日市ぜんそく・大気汚染防止法・道路公害（複合型汚染）
第4回	汚染防止法 2	前回の続きで大気汚染防止法の改正経緯を辿る。 民事訴訟と公健法による救済の歴史を概観する。 キーワード：共同不法行為・公健法・（旧）第一種地域

第5回	汚染「対策」法	土壌汚染を例に、具体的事案への環境法的アプローチを解説する。 汚染防止法政策と汚染対策法政策の発想の違い。次回に少し割り込む予定。 キーワード：土壌汚染対策法・特定施設・民事責任との関係
第6回	循環社会規制 1 (総論)	汚染対策を総括した上で、汚染防止規制の発展型（汚染予防型）に注目する。 まずは廃棄物規制・容器包装規制・循環基本法の関係性を確認。 キーワード：持続可能な発展・排出者責任・拡大生産者責任
第7回	循環社会規制 2 (産業廃棄物)	廃掃法の仕組みを概観し法政策としての発展過程を解説する。 今回は産業廃棄物規制を取り上げる。 キーワード：不要物・業許可・施設許可・措置命令・不法投棄罪・産廃管理票
第8回	循環社会規制 3 (一般廃棄物)	前回の続きで産業廃棄物に関する具体的な紛争事案を確認する。 引き続き、一般廃棄物規制を取り上げる。 キーワード：廃棄物処理計画・委託処理・事業系一般廃棄物
第9回	循環社会規制 4 (容器包装)	容器包装リサイクル法を中心にリサイクル法制を概観する。 循環基本法・環境基本法との体系的繋がり認識に重点を置く。 キーワード：3R・レジ袋税論議・指定法人
第10回	汚染事案分析	教員が提示する具体的な紛争事例に対し受講者が法的措置を提案する。 教材は当日提示する。第8回までの講義内容を復習して臨むこと。
第11回	法政策分析	汚染の未然防止と予防に向けた法政策の特質を分析し、立案を試みる。 教材は当日提示する。第9回までの講義内容を復習して臨むこと。
第12回	環境利用管理 1 (自然公園)	自然公園法の仕組みを概観し法政策としての発展過程を解説する。 自然公園法の規制利益を訴訟で扱う方途にも言及する。 キーワード：ゾーニング・不許可補償・反射的利益
第13回	環境利用管理 2 (影響評価)	環境影響評価法の仕組みを概観し法政策としての発展過程を解説する。 環境影響評価条例とのすみ分けにも言及する。 キーワード：アセス逃れ・戦略的環境影響評価
第14回	被害救済と 紛争処理の 法制度	環境破壊に起因する被害救済と紛争処理に関する特別の法制度を概観する。 通常の民事訴訟・行政訴訟との対比に重点を置く。 キーワード：公健法（第二種地域）・公害紛争処理法
第15回	地球温暖化対策・ まとめ	地球温暖化対策に関する法制度を概観する。 最後に、講義全体をつうじての総括を行う。 キーワード：GHG・排出量取引・パリ協定
関連 URL		
備考欄		